

YOKOGAWA 

横河電機株式会社

2026年3月期 第1四半期決算説明会

2025年8月5日

イベント概要

[企業名]	横河電機株式会社
[企業 ID]	6841
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2026 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会
[決算期]	2025 年度 第 1 四半期
[日程]	2025 年 8 月 5 日
[ページ数]	17
[時間]	18:00 – 18:40 (合計：40 分、登壇：11 分、質疑応答：29 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1 名 取締役 執行役 経理財務本部長 中嶋 倫子 (以下、中嶋)

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ポイント

■ 第1四半期実績：増収増益

- ・サマリー 受注は、主に為替の変動影響により減少
売上・営業利益は、為替の変動影響を受けながらも増加
- ・セグメント別 制御 増収増益
測定器 前年同期並み
新事業他 前年同期並み

■ 通期業績予想：5月に発表した予想から修正なし

中嶋：経理財務本部長の中嶋です。それではご説明します。

資料の4ページに今回の決算のポイントを記載しています。こちらの内容を次のページ以降でご説明します。

決算サマリー（前年同期比）

- ◆受注・売上：受注は主に為替の変動影響により**減少**（除・為替影響：+16億円、+1.0%）
売上は豊富な受注残を背景に**増収**（除・為替影響：+92億円、+7.1%）
- ◆営業利益：増収に伴う粗利増により**増益**（除・為替影響：+27億円、+18.3%）
- ◆四半期純利益：法人税等調整額の減少により**増益**。繰延税金資産の回収可能性を判断する際の会社分類の変更

	FY24 1Q	FY25 1Q	差 異	増減率	為替影響	(億円)
受 注 高	1,570	1,491	▲79	▲5.0%	▲95	
売 上 高	1,289	1,302	+13	+1.0%	▲79	
営 業 利 益	148	162	+14	+9.3%	▲13	
ROS(%)	11.5	12.4	+0.9pt	-	-	
経 常 利 益	171	156	▲15	▲8.9%	▲12	
親会社株主に帰属 する四半期純利益	101	152	+51	+50.7%	▲10	
為替レート 1米ドル=	158.15円	144.11円	▲14.04円	-	-	

5 ページ、決算サマリーです。

受注は 1,491 億円と、為替の影響を除くとプラス 16 億円、1.0%の伸長でした。売上は 1,302 億円、為替の影響を除くとプラス 92 億円、7.1%と大きく伸長しました。

営業利益は 162 億円、対前年プラス 14 億円でした。為替の影響を除くとプラス 27 億円、18.3%の増益でした。

当第 1 四半期においては、為替レートが対米ドルで 144.11 円と、前年の 158.15 円から大きく円高側に動いており、表の右側に記載のとおり為替の影響が対前年で大きな押し下げ要因となっています。その中でも、豊富な受注残からの売上がしっかり立ち上がってきたこともあり、為替の影響を吸収したうえで、増収増益を確保しています。

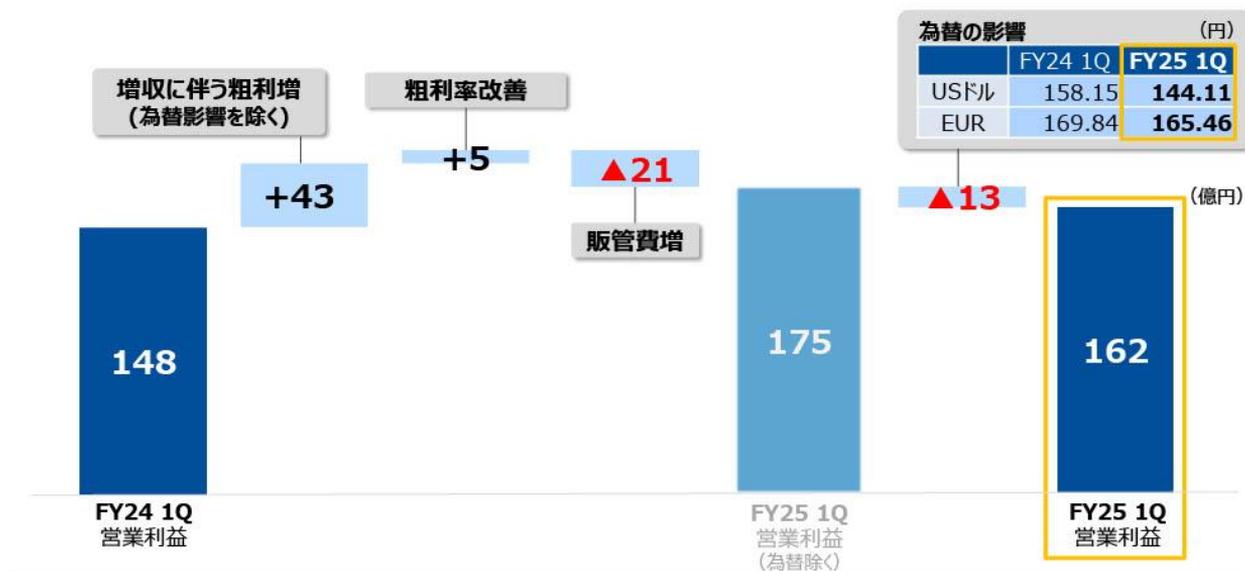
また、受注残が確実に売りに上がる一方で、引き続き売上高を上回る受注を確保し、受注残もこの 3 カ月でさらに 150 億円以上積み上げてこの第 1 四半期を終えています。

なお、営業外損益以下については為替差損を計上した一方で、法人税等調整額の減少もあり、四半期純利益は 152 億円と、対前年プラス 51 億円の増益でした。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益分析（前年同期比）



YOKOGAWA Co-Innovating tomorrow™

| August 5, 2025 |
© Yokogawa Electric Corporation

6

続いて6ページ、営業利益の増減分析です。

営業利益は前年同期の148億円から、為替の影響を除くと27億円の増益でした。増減の内訳としては、増収に伴う粗利の増加がプラス43億円、粗利率改善の影響がプラス5億円、販管費増加の影響がマイナス21億円でした。

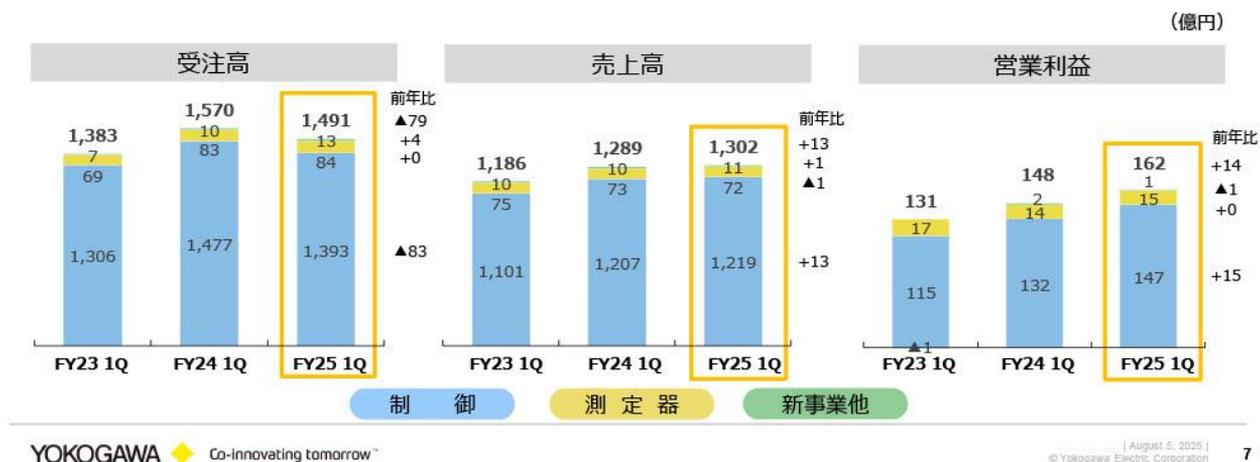
こちらの販管費増加についてですが、インフレによる人件費などのベース費用の増加に加え、前年度中に買収したBaxEnergy社などののれん等の償却費や先行投資的な費用も含んでの増加となっています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆制御事業：受注は減少。ただし、為替の変動影響を除くと前年同期並み（除・為替影響：+6億円 +0.4%）
売上は増収（除・為替影響：+87億円 +7.2%）
営業利益は増益（除・為替影響：+26億円 +19.7%）
- ◆測定器事業：前年同期並み（除・為替影響：受注+6億円 +6.7%、売上+3億円 +4.8%、営業利益+2億円 +14.0%）



続いて7ページ、セグメント別の受注、売上、営業利益です。

まず青色の制御です。受注は対前年でマイナス83億円、為替の影響を除くとほぼ前年並みのプラス0.4%の伸長でした。前年同期に大口受注が集中していたため、この3か月だけを切り取ると横ばいです。

売上についてはプラス13億円、為替の影響を除くと7.2%の伸長でした。営業利益はプラス15億円、為替の影響を除いた実質ベースでは26億円の増益でした。

続いて黄色の測定器です。受注は前年並み、為替の影響を除くと6.7%の伸長でした。売上は若干減少ですが、為替の影響を除くと4.8%の伸長、営業利益については若干の増益でした。

このセグメントについては、AI関連データセンター向けの高速度光通信トランシーバーや光スペクトラムアナライザなどが引き続き堅調なほか、当第1四半期においては家電メーカー向けの測定器需要などについても全体の受注数字を押し上げています。

最後に、緑色の新事業その他については、前年から大きな変動はありません。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

制御地域別 受注・売上高

- ◆受注は、為替影響を除くと、東南アジア・極東、北米、欧州、中南米で増加
中東は、前年同期の大口受注の反動がありつつも、為替影響を除くと前年同期並み

(億円)

受注高	FY24 1Q (A)	FY25 1Q (B)	前年同期比 (B-A)	売上高	FY24 1Q (A)	FY25 1Q (B)	前年同期比 (B-A)
日本	325	326	+2	日本	287	317	+29
アジア	480	429	▲51	アジア	424	364	▲59
(東南アジア・極東)	(208)	(213)	(+5)	(東南アジア・極東)	(179)	(173)	(▲6)
(中国)	(178)	(155)	(▲24)	(中国)	(186)	(142)	(▲44)
(インド)	(94)	(62)	(▲32)	(インド)	(58)	(50)	(▲8)
欧州・CIS	121	122	+2	欧州・CIS	126	147	+21
中東・アフリカ	390	358	▲32	中東・アフリカ	193	229	+36
北米	111	107	▲3	北米	127	127	▲0
中南米	50	50	▲1	中南米	50	35	▲14
海外小計	1,152	1,067	▲85	海外小計	919	902	▲17
合計	1,477	1,393	▲83	合計	1,207	1,219	+13
為替レート 1米ドル=	158.15円	144.11円	▲14.04円	為替レート 1米ドル=	158.15円	144.11円	▲14.04円

YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

| August 5, 2025 |
© Yokogawa Electric Corporation

8

続いて 8 ページ、制御セグメントの地域別の受注、売上です。

表の左側の受注ですが、当第 1 四半期においては為替レートが円高に推移した影響もあり、前年同期比で減少となっている地域が多くあります。ただし、冒頭に記載しているとおり、為替の影響を除いた実質ベースでは堅調な地域も多く、東南アジア・極東では、CCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) の大型案件を獲得するなど、約 10%の伸長となっています。北米、欧州、中南米などについても、それぞれ 5%から 10%程度の伸長でした。

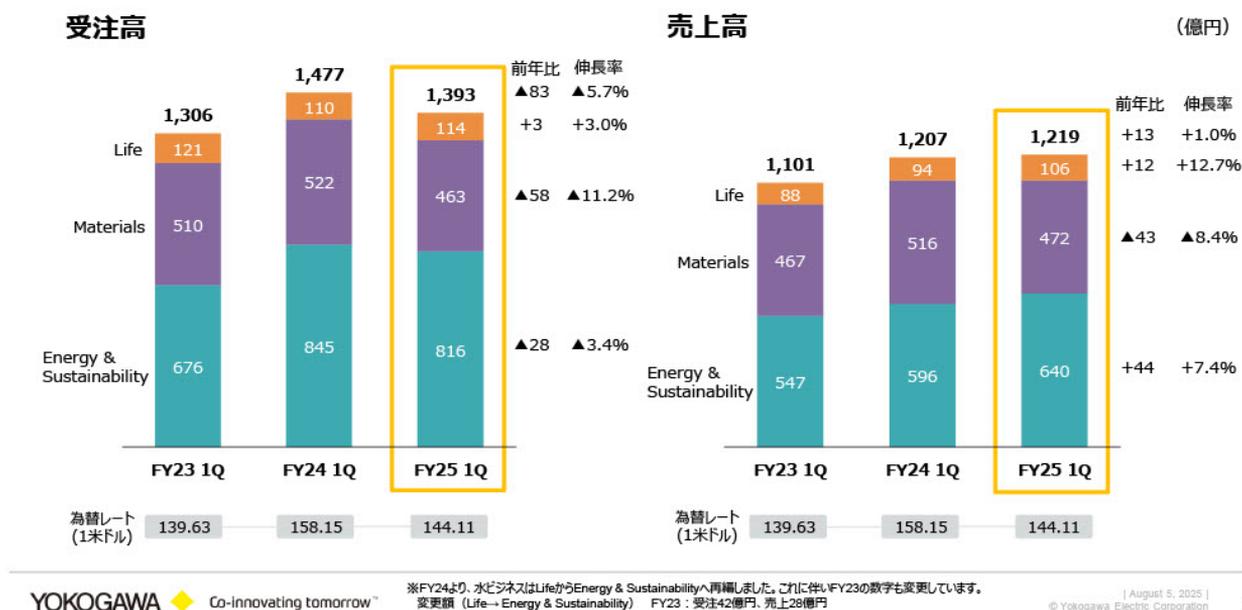
また、中東に関しては、前第 1 四半期にサウジアラビアでの大型案件が集中して計上されたため、当第 1 四半期においては反動減を見込んでおりましたが、小口受注の伸長に加えて UAE (アラブ首長国連邦) 向けの大口受注を複数獲得したこともあり、為替の影響を除いて前年並みの水準を確保しました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

制御サブセグメント別 受注・売上高



続いて9ページ、制御の業種セグメント別の受注、売上です。

受注ですが、左側のグラフの緑色の Energy & Sustainability について、こちらは対前年マイナス28億円ですが、為替の影響を除くとプラス3.8%の伸長でした。

先述のとおり、前年同期にはサウジアラビア向けの大口受注が集中して計上されておりましたが、その反動減を UAE 向けの大口案件のほか、東南アジア、北米などでの大口案件獲得、それに加えて小口受注の伸びなどで補い、伸長を確保しました。

続いて真ん中の紫色、Materials です。こちらはマイナス58億円、為替の影響を除いても6.2%の減少でした。減少額のうち、おおむね半分強については中国での減少になっており、Materials 事業の比率が高い中国の経済減速の影響を強く受けています。

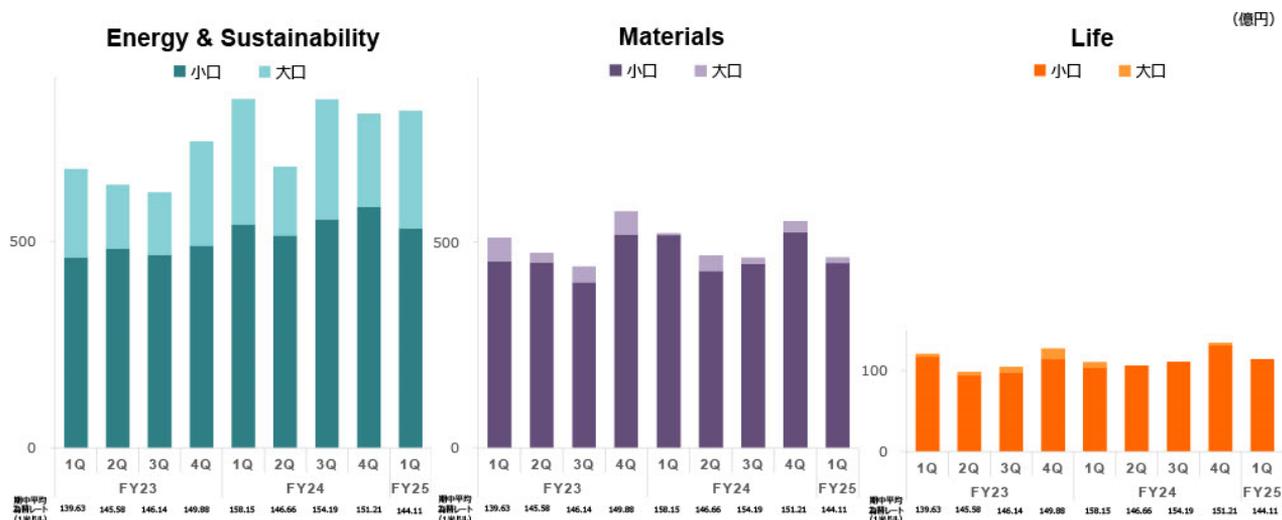
マーケット環境としては高機能化学を中心に今後も引き続き投資意欲は堅調と見ていますが、この第1四半期を切り取ると、中国の景気減速、およびその波及的な影響も含んだ基礎化学の投資の手控えの影響が出ています。

続いてオレンジ色の Life です。こちらはプラス3億円、為替の影響を除くと6.1%の伸長でした。前年同期に獲得した大口プロジェクトの反動減もある中で、堅調な国内の食品・医薬品向けの案件が補う形で伸長を確保しました。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

制御サブセグメント 規模別受注



YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

※小口：3億円/3MUSD未満の受注。主にMRO/PS system upgradeなどのOPEX
大口：3億円/3MUSD以上の受注。主にシステムの導入などのCAPEX

| August 5, 2025 |
© Yokogawa Electric Corporation 10

続いて10ページ、業種セグメント別の四半期ごとのトレンドを、大口案件と小口案件に分解して示しています。

それぞれのセグメントのバーの上段、薄い色の部分が3百万米ドル以上、あるいは国内案件では3億円以上の大口案件です。下段がそれ以下の小口案件という区分です。

Energy & Sustainability 事業は、前年同期に大口受注が集中していたことをこちらのグラフからもご確認いただけたと思います。

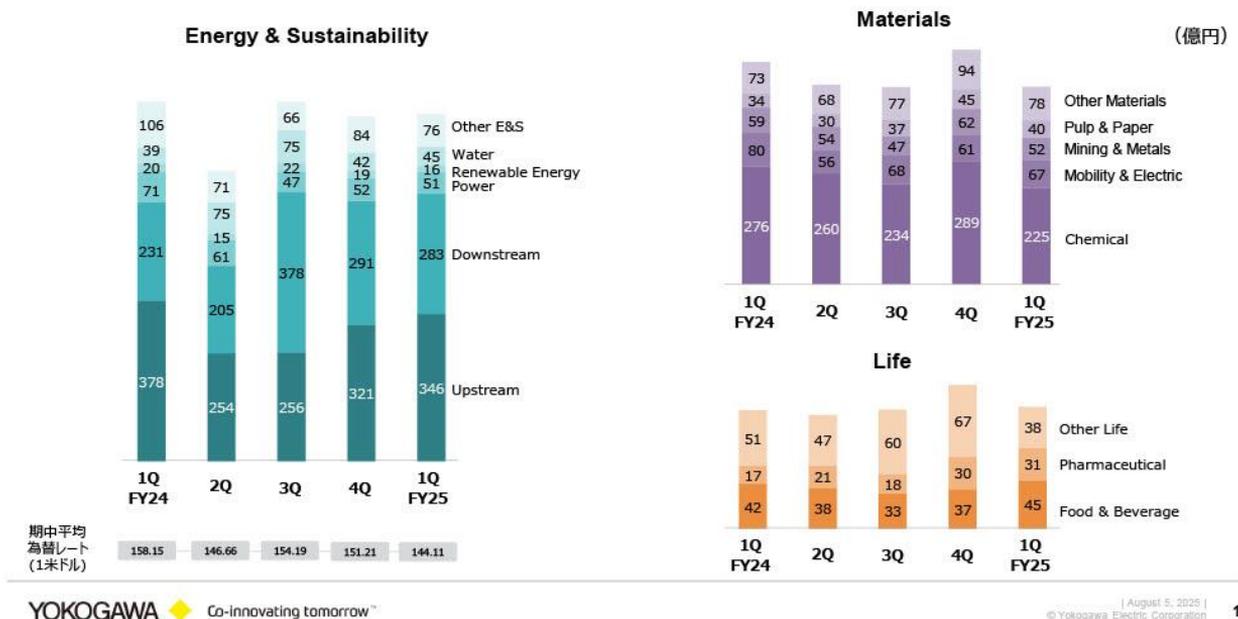
そのような中でもしっかり伸長を確保できた結果となっています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



制御業種別 受注



続いて 11 ページ、3 業種セグメントをさらに細かく分解して四半期トレンドを示しています。

今回から区分を少し詳細化していますのでご紹介します。

まず右上の Materials です。これまでは Chemical とその他の 2 区分で示していましたが、今回からその他のうち Mobility & Electric、Mining & Metals、Pulp & Paper を区分して表示しています。

また、Life については、今回から食品と医薬品を分けて表示しています。

今後はこの分類でトレンドを示したうえで、有意な変動がある場合は補足して説明させていただきたいと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

FY25業績予想（修正なし）

- ◆受注高は、堅調なエネルギー需要を背景にお客様の投資意欲は活発であるものの、FY24に中東・アフリカ地域で大型案件の計上が集中したことの影響などにより**減少**
- ◆売上高は、FY24までに受注した大型案件が売上に寄与するものの、為替の変動影響などにより**減収**
- ◆営業利益は、為替の変動影響などにより**減益**

(億円)	FY24 (A)	FY25予想 (B)	前年比 (B-A)	伸長率 (B/A-1)	前年比 (除・為替影響)	伸長率 (除・為替影響)
受注高	5,986	5,800	▲186	▲3.1%	+179	+3.0%
売上高	5,624	5,600	▲24	▲0.4%	+316	+5.6%
営業利益	835	800	▲35	▲4.2%	+73	
ROS(%)	14.9	14.3	▲0.6pt	—		
経常利益	854	800	▲54	▲6.3%		
税引前利益	785	800	+15	+1.9%		
法人税等	264	275	+11	+4.2%		
親会社株主に帰属 する当期純利益	521	525	+4	+0.7%		
EPS(円)	200.41	202.81	+2.41	—		
為替レート 1米ドル=	152.55円	140.00円	▲12.55円	—		

YOKOGAWA  Co-innovating tomorrow™

※当社は自己株式の取得について決議しました。（取得期間：2025年3月5日～2025年12月末日）
FY25予想における「EPS(円)」について、2025年4月以降の自己株式の取得の影響を考慮していません。
したがって、今後の自己株式取得の状況により、変動する可能性があります。

[August 5, 2025]
© Yokogawa Electric Corporation

12

12 ページ以降は、年間の業績予想に関するスライドが続いています。

5月にご説明した業績予想からの変更はありませんので、ご説明は割愛させていただきます。

私からの説明は以上です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質疑応答

[Q]：第1四半期の実績（受注・売上・利益）に対する評価を伺えますか。また、社内計画対比ではどうだったのでしょうか。

中嶋 [A]：社内計画はストレッチした高い目標を設定していますので、ここでは5月に発表した業績予想との対比でご説明しますと、受注は想定より良いスタートを切れたと考えています。

Materials が若干弱かったものの、Energy & Sustainability で想定以上にカバーすることが出来ました。売上及び営業利益は、ほぼ想定通りの着地でした。

[Q]：受注が良かった背景について具体的に伺えますか。

中嶋 [A]：まだ3か月しか経過していないタイミングですので、「見込んでいなかった案件が出てきた」「受注確率が大幅に上昇した」というよりは、当初、受注できるか分からなかった案件についても受注できたということだろうと捉えています。

[Q]：説明会資料6ページの営業利益の増減について、具体的にどのような要因が影響しているのでしょうか。加えて、関税の影響について、当初の想定のうち第1四半期ではどの程度が実際に発生したのでしょうか。関税のプラス面及びマイナス面とともに教えてください。

中嶋 [A]：粗利率の改善5億円については、中国経済の影響などもありプロダクト売上が弱含むなかで、プロジェクト売上がしっかりと立ち上がってきており、ビジネス構成比の影響として計算上10億円程度のマイナス要因となる一方で、これを補うような改善がプロダクト、プロジェクト、ソリューションサービスのそれぞれで少しずつ出た結果となっています。

米国関税の増加影響については、第1四半期時点で3億円程度です。PLに影響がでるまでには時間差があるため、現時点でのPL影響はもう少し低い印象を持っています。FY25の業績予想においては、4月2日に発表された水準をベースに追加関税支払額を30億円程度と想定し、半分ほどをお客様にご負担いただく形で15億円程度を織り込んでいました。中国は未だ決着していませんが、直近の状況を踏まえるとFY25の追加関税支払額としては15億円強とみており、そのうちどこまでをお客様にご負担いただけるか、ということになると思います。年間の営業利益に対する影響はそれほど大きくはありませんが、情報は適宜更新していきたいと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

[Q]：関税の影響について、マイナス／プラスそれぞれの影響があれば伺えますか。マイナス面ではお客様側での投資抑制や、プラス面では新たな受注が獲得できた等の話があれば、詳しく教えていただけますか。

中嶋 [A]：プラス面とマイナス面のどちらについても、関税の影響であると特定するのは難しいため、定性的なご説明となりますが、第1四半期の Materials の弱さは、世界的な関税の決着が見えないために、例えば中国での投資についてお客様が様子見をしている側面があったと思います。これは中国市場に限った話ではなく、生産地や仕入れ先によって関税率とその影響がそれぞれ異なるため、長期的な需要予測に影響します。日本も含めて交渉が決着する国が出てきたことで、第2四半期以降は安心感が出てくるのではと期待しています。

[Q]：Energy & Sustainability の需要環境について、詳しく教えてください。中東での大口案件の獲得や、東南アジアや北米でも概ね良い結果が得られたということですが、具体的に現場でどのような動きが起こっているのでしょうか。

中嶋 [A]：中東では、昨年度に天然ガス中心のサウジアラビア、今回は UAE（アラブ首長国連邦）などの案件がありました。エネルギー関連の投資は長期的な計画に基づいて進められますが、それらが計画通りに進んで、当社の受注・売上につながったということだろうと考えており、この第1四半期では特に UAE の堅調さが目立ちました。中東全体として、昨年度はアップストリーム中心でしたが、今年はそれに加えてダウンストリームも強い印象があります。米国については、もともと動いていた LNG 関連の案件が受注につながった等の動きがありました。東南アジアについては、CCUS 関連で大口の受注が入っています。カーボンキャプチャー関連の案件は東南アジアに限らず中東でも入ってきているため、今後の需要・動向は前向きに推移すると考えています。

[Q]：様々な地域で天然ガス関連の案件が受注に大きく寄与しているという理解でよいでしょうか。

中嶋 [A]：はい。さらにそこから、ダウンストリーム側の投資へと広がりが出てきています。脱炭素という大きな流れがあると思っています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

[Q]：国別の需要環境について伺います。日本、インド、中南米などでは、それぞれどのような動きが起こっているのでしょうか。

中嶋 [A]：日本は横ばい傾向ではありますが、投資が弱まっているわけではなく、引き続き堅調に推移していくと見ています。第1四半期に関して言えば、米国との関税の決着待ち、様子見という側面が幾分かあったのではないかと考えていますが、15%で決着したことで、今後は動きが出てくるのではと思います。中南米については為替の影響を大きく受けており、為替の影響を除くと8%程度のプラスですから、こちらも堅調に推移していると理解しています。インドは、第1四半期だけで見るとマイナスになっているものの、パイプラインはしっかり存在します。足元の弱さは少々あるものの、今後の人口増加や生活水準の向上が見込まれる国であり、長期的な需要予測に基づいた案件はしっかりあると考えています。

[Q]：一部、Materialsで様子見の話などがありましたが、エネルギー関連は好調ということで、基本的には良い需要環境であるという理解でよろしいでしょうか。

中嶋 [A]：直近の数字だけを見るとMaterialsなど気になる点はあるものの、この先の案件はしっかり確保しています。特にMaterialsは後半、特に第4四半期に売上が集中する傾向があるセグメントでもあり、現時点では特に問題はないと考えています。

[Q]：第2四半期以降の受注について、通期計画に対する上振れが見えてきているのでしょうか。

中嶋 [A]：まだ8月というところもありますし、受注については、案件の規模やタイミングなどの影響が大きいため、最後の最後まで結果は分かりません。そのため現時点で「通期計画を上回る」とお伝えできるほど、第1四半期で受注を積み上げられたとは考えておりません。一方で、昨年度の第1四半期は非常に良い結果だったため、その実績を超えられたという意味では良いスタートだったと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

[Q] : Energy & Sustainability において、CCUS 関連などの案件のお話がありました。パイプラインや受注環境は以前よりも改善しているのでしょうか。

中嶋 [A] : パイプライン全体としては増加している部分もあるかと思います。昨年度の反動減などがある一方で、今年もそれなりに大きな案件が存在しますので、それらをしっかり確保していきたいと考えています。

[Q] : 説明会資料 6 ページの利益の増減分析について、販管費の評価を伺えますか。

中嶋 [A] : 販管費に関しても業績予想で想定していたところに対してインラインです。業績予想の対前年マイナス 67 億円に対して、第 1 四半期でマイナス 21 億円となっており、少し先行しているように見えるかもしれませんが、FY24 の第 1 四半期に、引当金の戻入など販管費を押し下げる要因が細々とあったことが、反動増の要因となっています。これらは第 1 四半期の増加要因として織り込んでいましたので、差し引けば想定通りの進捗です。

[Q] : 米国関税については決着しましたが、長期的な視点で、LNG やアラスカでの案件などを含めた米国における今後の事業機会について伺えますか。競合企業が強い市場ですが、御社にとってチャンスとなるのでしょうか。

中嶋 [A] : 関税については先日決着しましたが、全体としてはお客様がどのように受け止め、今後どのように投資計画に反映されるか等、全体の動きを丁寧に把握していく必要があると考えています。米国に関して言えば、競合企業の牙城でもありますから、我々がアクセスできる領域は限定される部分もあるかもしれません。今後どのようにアプローチしていくのか、しっかりと検討していきます。

[Q] : 測定器事業について、AI 関連データセンター向けの製品が堅調とのことですが、その点にあえて言及された背景について伺えますか。

中嶋 [A] : 当社は制御事業の比率が非常に高いため、そのままお話しすると制御事業の説明ばかりになってしまいます。そのため、説明会では測定器事業についても必ず触れさせていただくことにしています。測定器事業では、以前からデータセンター関連の堅調が続いています。制御事業は中

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



国で少々厳しい状況が続いていますが、その一方で測定器事業は好調であるなど、全体の動きと異なる点もあるため、今回ご説明しました。

[Q]：測定器の販売先は、どのような地域があるのでしょうか。

中嶋 [A]：中国や日本をはじめとして、世界各地に各拠点から販売しています。

[Q]：中国の実績について伺えますか。第1四半期はYoYである程度回復しているように見えますが、今後の実績はどのように推移していくとお考えでしょうか。

中嶋 [A]：昨年度の第1～2四半期にかけての動きについては、我々自身がその数字の動きを作っている側面がありました。昨年7月1日付けで価格改定を行なったためにプロダクト品において駆け込み需要が発生し、例えば中国ではその反動で第2四半期がマイナスになるなどの影響がありました。今年度についてはマーケットの状況も踏まえて中国での値上げは見送っていますので、概ね平常値であるとみています。表面上マイナスではありますが、受注としてはそれほど大きな落ち込みはないと考えています。

[Q]：説明会資料6ページの利益の増減分析について、粗利率の改善に何が寄与しているのでしょうか。

中嶋 [A]：特定の一部が改善したというよりは、全体的に良くなっていると考えています。一方で、四半期（3カ月）だけ切り取って数字を見てしまうと、案件の状況次第で簡単に10億円以上が動いてしまうこともあるとご理解いただければと思います。その前提を置いたうえで昨年度からの改善要因を挙げるとすれば、2023年度の第4四半期から伸びてきたプロジェクト受注のうち、売上が後半に差し掛かる案件が出てきていることです。プロジェクトは工事進行基準に基づいて売上が計上される過程で、前半は少しコンティンジェンシーがあることから低めの粗利率で売上が計上されます。工事が進行するとそのリリースも含めて利益率が向上する傾向がありますので、プロジェクトの後半にかかる売上が増えてきた点が、全体の粗利を改善させる一つの要因になったのではないかと考えています。一方で、プロジェクトはひとつひとつが大きく異なるものですから、ミックスによって期ごとのブレが生じる点をご理解いただければと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[Q]：第1四半期でなぜこれほど法人税の調整が発生したのか、要因を教えてください。

中嶋 [A]：収益水準が向上してきたことから、当社および国内グループ会社の繰延税金資産の回収可能性を判断するための会計上の会社分類が変更となりました。その結果、今までより多くの繰延税金資産を計上することとなり、今回の法人税調整につながりました。

[Q]：当初計画においても、ある程度は想定されていたのでしょうか。

中嶋 [A]：営業外損益以下についてはプラスやマイナスの要素を含めて全体として想定しており、その範囲の中である程度は計画に加味していました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com